

現況・課題

提案

生活のしにくさ

多くの障害者がまだ家にいる。外出しにくさがある。

ハード面はお金をかければ何でもなる

外出

- ・ 自転車がこわい
- ・ 障害者専用スペースに一般車両が駐車
- ・ 点字ブロックが多く車いすで移動しづらい。なにかよい工夫はないか。
- ・ 歩道がせまく車道に向かって傾斜だらけ
- ・ 商店の看板が点字ブロックの上に乗っている
- ・ 信号がない横断歩道は一人では渡れない
- ・ 歩行中に途中で人や物にぶつかったりすると方向がわからなくなる
- ・ 車いす「専用トイレ」から「優先トイレ」になり、一般の人が使ってしまうて使えない
- ・ スロープを使うバスは運転手の労力がかかるし、乗客にも時間のロスがある。
- ・ 段差を乗り越えないと入れない商店がある

日常生活

- ・ 家を中心に地域社会で普通に暮らしたい
- ・ 一般の人の中に入って活躍できる場がない。分けられてしまう
- ・ 「聞こえないということに対して理解してもらえない」ことが多い
- ・ 区役所に通訳がいつでもほしい

意識のバリアフリー

- ・ アパートを借りたい、どこかにいきたい、がうまくいかない
- ・ 今まで障害者を別枠で捉えていた人たちは、いきなり「一緒にまちで暮らそう」と言われても、その心の中に入り込むことは難しい
- ・ 箱物をたくさんつuckingて障害者をそこに入れればよいという考え方がこわい
- ・ 生活の場所が限られる。地域の人がそれを当然と思うことがこわい

障害児の理解

- ・ 障害者の問題を特別視しないで皆の問題として共有してほしい
- ・ 障害児はどこにでも生まれる可能性がある。もっと理解して欲しい

中途障害者

中途障害者と生まれつき障害者は意識がちがう。高齢中途障害者は過去のことにとらわれ「生まれつきの障害者とはちがうのだ」という意識がある

教育の問題

障害児の塾

ふつうの子どもや軽度障害児の塾はあるのに障害が重いと受け入れられなくて自分達でつくった

学校教育

- ・ 健常者と障害者が別れて育つことの問題
- ・ 養護学校と中学校の交流
- ・ 障害児教育プラン なんの対策もなしに普通級では対応できない
- ・ 障害だといじめられることも
- ・ 学校を出てからの長い時間の共生 一般級にいくといじめられると保護者が思う。しかし、学校を出た後の長い生活のほうが大事
- ・ お母さんややさしい先生のそばで保護されていると、社会のルールや共に生きていくにはどうしたらいいのかということを考えられない

福祉教育

- ・ 学校・行政の福祉教育活動により、理解してもらえるようになった
- ・ 授業の中だけで福祉教育を教えようとしている。理解だけではなく地域での生活・取り組みを教えて欲しい
- ・ 小さい学年から大きい学年まで発達段階に応じて学校全体の取り組みになって欲しい。授業にでてきた時だけ勉強するのはおかしい
- ・ 視覚障害者の困難さの認識。実際にアイマスクなどつけて歩行体験をしてみたい

支えてくれる人

- ・ ボランティア
- ・ 市の職員
- ・ ヘルパーさん
- ・ 通訳
- ・ 手話（ふれあいサークルかめ）
- ・ 保健師
- ・ 町内会
- ・ 近所の人

ふつうにつきあう

ボランティアに連れて行ってもらうのではなく、やあいこうよというともだちがほしい

ともだち

情報

情報をまとめるプラットフォームの必要性を感じている

- ・ 区外とのつながり
- ・ 他の会ともつながりたい
- ・ 東京都の保健所の対応は良い
- ・ 療育センターに近所に同じ障害者がある人がいないか聞いてもプライバシーの問題とって教えてくれなかった

